

今まで生きてきた中で、忘れることのできない出会いがありました。それは昭和36（1961）年3月末、私が高校1年生から2年生になるときでした。

当時の皇太子殿下、美智子妃殿下が松本、穂高などを視察されました。前夜から降りだした雪は雨に変わり、道はぬかるんでいました。車から降りたお二人は、こうもり傘を各自で

65年前の出会い

陛下に引き継がれ、災害地や平和行事などに積極的な出向かれ、国民の敬愛の的となつています。

私は大学で憲法を学ぶ機会がありました。日本国憲法第1条には「天皇は、日本の象徴であり日本国民統合の象徴であつて、この地位は、主権の存する日本国民の総意に基づく」とあります。象徴とはどう

いうことか、話し合つたことを思い出します。私は、

あのときのお二人の姿がそうであるうと確信しています。私たちと同じ目線に立ち、国民の平和を願う姿だと思ひます。

皇位継承は男系の男子に限らず、女系の女子でも、どちらでもいいと考えます。改正皇室典範が未来に禍根を残すのではないかと危惧しています。

あれから65年の歳月が流れました。上皇ご夫妻の精神は天皇皇后両

宮へ入つていかれました。美智子妃殿下の靴のかかとが土にめり込み、歩くのが大変だったと思ひます。美術館を出られたお二人は、沿道に並ぶ人々に向かって笑顔を浮かべながらポーズをとってくださいました。私は急いでカメラを向け、記念の写真が残りました。

